

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-138598

(43)公開日 平成7年(1995)5月30日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 1 1 D 11/00 7/44				

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平5-329525

(22)出願日 平成5年(1993)11月19日

(71)出願人 594000011

田口 ヒサ子

東京都武蔵村山市学園4-16-7

(72)発明者 田口 ヒサ子

東京都武蔵村山市学園4-16-7

(54)【発明の名称】 パレンシヤオレンジ石鹼

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 汚を落とし、例えば衣類用、茶わん用、鉄銅さびとり用等、主として日常生活に使用されているもので、一般的に市販されていない、健康的で、肌をいためないものを提供する。

【構成】 パレンシヤオレンジの皮と苛性ソーダを原料とした石鹼とその製造方法。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (つくり方)

- (1) 洗浄し、皮をむく(オレンジ一個分)。
- (2) すし屋の大きなすしの湯のみに(1)の皮を入れ水を上から5ミリ空す。
- (3) ふたは、コルクのふたをして、水分が飛んでいくのを防ぐ。
- (4) 毎日1日に1~2回約1ヶ月間程、混ぜておく。
- (5) 2ヶ月目, 3ヶ月目は、時々ふたを開けてへりすぎているかあまりへりすぎていればふたが開いているかこわれていて空気が入りすぎ気をつける。
- (6) 3ヶ月目満月に至る(作品の原料が出来上る)。

【請求項2】 (7) 皮を取り出し、洗浄し、乾いたパウンドケーキ焼用のアルミの器を使用し、スリコギ又はめん棒でこすりつけてどろどろのエキスを、時々湯のみから移す。くり返している中に、皮の姿が消えてしまう。

(8) アルミの裸なべがよい。メッキがしてあるとはがれてしまう。鍋は綺麗に洗って、乾いた布で拭取り、火にかけて乾す。

(9) 鍋の中にオレンジのエキスを全部入れて、一、二度沸とうした所で、可性ソーダを入れ、ひっかきまわし、煙とにおいに気をつける。大きな木のしゃもじでひっかきまわし、3~4分間置いて、少々どろどろしたエキスになった。

(10) それをポリプロピレンマドレーヌパックとして市販されているもの使用。このパックの中に入れる。使用スプーン(RG)レモンモア粉石鹸の中に入っているもの。ふたをした。

(11) ふたをした石鹸を、マドレーヌ用ケーキ焼く器に入れて、他の器に水、氷を入れ台所の流し場で器ごと冷す。20分間冷して出来上り。石鹸完了。

(器の使用実施例) すし屋用湯のみ(大)。コルクのふた。マドレーヌパック(ふたつき簡単なとりはずし)

毛については、
絹についても、 } 石鹸をぬるま湯でとき20~30倍にうすめ、毛、絹をたっ

ぶりエキスにつけて時間をかけて5分で落ちないものは、10分間エキスにつけておいてみる等はどうかしら。押し洗いにして仕上げる。晴天の日を選ぶ事が大切(汚れた部分は、手の脊の指、親指を浅く3~4本の指でたたき洗いをする)。ぬるまゆで洗・すすぎ成功。

【0006】

【作用】日光(漂白), 酸(オレンジとぶ), 可性ソーダー(アルカリ性と酸で中和する働き), 水(きれいにする働き), 空気(ふれるとからりとかわく), 湯(とけ易い, 汚れが落ち易い)

【0007】

【実施例】

オレンジ石鹸で洗濯を実施結果
髪染の色が衿につき、絹の場合黄色くなった(白くなる

*可。)。めん棒。マドレーヌ焼用器。大型鍋(26cm)。材料の種類(アルミニウム)。表面加工(アルマイト)

(熱火)
電熱器600W

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 オレンジの洗剤で鍋, 釜, こげつき, さび等とれる事が判明した故、洗濯にも可能ではないかと思ひ、石鹸を作るに至った。乳液状の石鹸の為にすらでもうすめて使用する事が出来る。オレンジの為にせんいをいためない。短時間で可。

【0002】 コストが安く経済的である。すすぎ水が少なくすすむ点。捨てる物を生かそう。実を食べて皮の使用を。ゴミ屋が助かる。石鹸のエキスが一回のみでなく何回でも使用可(経済的)。

【0003】

【従来の技術】 昔は、殆んど石鹸は固形のものである。固くて落ちにくいものが頭に浮んでくる。運動服も、ズボンも落ちずタワシでこすりつけていた。小学生の頃である。現代は、粒状、液状、乳液状色々ありよく落ちるようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 絹のブラウスの衿洗の結果髪染の黒い色が黄色になって白く落ちない。毛20, ポリエステル80のセーターの衿の汚れ、あまり綺麗でない。毛は酸性なのに何故。時間が経過すると自然にとれるか否かが問題である。靴下ポリエステル100% よごれよごれとしている(きたない)。ポリエステルはアルカリ性か?

【0005】

【課題を解決するための手段】

のはいつでしょうか)。ポリエステル100%、婦人ソックス 毛玉と共に底もくるぐると汚れ汚れとしていた(第1回実施例)。毛20%とポリエステル80%、セーター衿 何となく汚れとれず(第1回の洗濯実施例)。

【0008】

【発明の効果】

洗濯物の特点
綿...地肌を明確にし、タオルは、フワフワと3倍にふくれている。色も鮮かなり。すすぎ満点、汚れもおちる(下着, スリッパ...色が鮮かに出る。よみがえるように。パンツ...ビタミン剤で黄色になっていたがすぐとれる。シャツ...白)。綿色物(エプロン...のりづけしたようにしっかりとる。マクラカバー...ふんわりと柔かく

10

20

30

40

50

感じる。水のりをつけたように肌ざわりがよい。)色落なし。ハンカチ(ジョーゼット)色落なし。柄が出て綺麗。のり付けしたもののようアイロンもいらぬ(フワリとしている)。ナイロン, ポリウレタン, キュブラ等には、地がしっかりと浮ぼりになる。色あざやかに出る。つやが出る(ポリウレタン, キュブラ)。アクリル100%よくおちる。水のりをはったようにしっかりとなる(ナイロン)。ナイロンの靴下は、水のりをつけたように固くなって乾く。台所のさび落しを洗剤(オレンジ)と石鹼の比較をすると、石鹼は1週間目にうすくなった。洗剤の方は、1ヶ月かかってようやく所々白々となって来つつある。絹のブラウス...洗いから、すすぎ迄ぬるま湯で洗った(洗ぬるま湯すすぎ水第一回目 日光に干す。光ってつやつやしている。)場合、絹である

ので、第二回目 日陰干、日光もささん、風通しもよい場所に干し乾いた所、ブラウスに光りがなく白さが押えられてしまう事がわかる(衿は綺麗に白くなりました)。

毛20%ポリエステル80%セーター

洗濯の効果 第一回目 石鹼は、ぬるま湯でといて水につけておいた。セーターを5分カゴに上げ石鹼につけ5分ばかりして洗う。洗い すすぎまで水で終る。日光に当てよごれよごれと乾く。第二回目 洗う前にぬるま湯につけ、ざるに上げぬるま湯でといた石鹼につける。5分間~10分間して押し洗いし、すすぎもぬるま湯で仕上げる。出来上りも大成功に至る(通風のよい日陰干しにしたものである)。参考 コーヒー、湯のみ、紅茶各カップ石鹼で汚れ落る。